



Tohoku for Nepal Vol.3

JISPの今とこれから 活動報告 & 交流パーティー



JISP は、これまで 東日本大震災で被災した若者を応援するプログラムの実施、また心理社会支援家の方へのワークショップの提供などを通し、震災で被害にあわれた方、またコミュニティへの復興と発展を支援してまいりました。そして今その活動は、ネパールへも広がっています。

これまでに JISP が行ってきた活動を改めて振り返り、これから目指していきたい方向性についてぜひ皆さまと一緒に考えさせてください。東北からネパール、そしてその先へ。私たちは、支援の輪を一つずつ進めていきたいと考えています。

活動報告 & 交流パーティー 開催概要

日時・費用 **5月14日(土)**

第一部 17:00-19:00 __ 500円 (ワンドリンク付き)
 第二部 19:00-21:00 __ 学生: 2,000円、社会人: 3,000円
 (ワンドリンク・ネパール料理付き)

場所 中目黒 TRY

目黒区上目黒3-6-5 中目ビル5階
 TEL: 03-3710-7666 HP: nakameguro-try.com



お申し込み方法

5月7日(土)までに、「contact@jisp.org」に、①お名前 ②職業 ③参加プログラム (第一部のみか第一・第二部両方か) ④参加者の人数の情報をご連絡ください。
 なお、メール送信時は件名を「5月14日中目黒イベント申し込み」としてください。

プログラム

〈第一部〉JISP 活動報告 17:00-19:00

- ・東北の今・これまでの JISP の活動
- ・報告1: JICTER/ヒーリングジャパンプロジェクト
- ・報告2: ネパールプロジェクト
- ・報告3: Youth Leader Training プロジェクト
- ・これからの JISP の方向性

〈第二部〉交流パーティー 19:00-21:00

- ・乾杯のご挨拶
- ・ネパール料理
- ・ネパールチャリティーオークション
- ・楽しく心を癒すミュージックライブ

※プログラムは変更になる可能性があります。
 ※第一部・第二部両方、またはどちらかの参加も可能です。



災害からの心の回復と成長をサポート

NEWS LETTER

May 2016

Vol.03

海外支援プロジェクト

ネパールなど、自然災害による被害を受けた地域に対し、医療サポート・心のケア・若者支援などを継続的に行うプロジェクト

「ネパール災害専門家教育プログラム」10日間のグループ研修を実施



2015年4月25日に発生した、ネパール地震から一年が経過しました。地震発生直後の緊急支援を通して、我々はネパール国内の心理専門家が圧倒的に不足しているという課題と直面しました。このため、外務省からの助成を受け、2015年12月より現地の大学生25名を対象とした、「ネパール災害専門家教育プログラム」をスタートさせています。

◀25名のやる気と希望に溢れた研修生たち。

専門的かつ具体的な知識を学ぶ濃密な10日間

「ネパール災害専門家教育プログラム」は、現地トリバン大学トリチャンドラ・カレッジ心理・哲学学科と連携し、心理、医療、社会福祉分野の専門家または学生25名に向け、心理社会支援のスキルや知識を伝え、次世代のリーダー・指導者を育成することを目的とするプログラムです。2015年12月には第1回のグループ研修が行われ、PFA(心理的応急処置)のトレーニングを修了しました。

第2回目のグループ研修は3月23日~4月3日に実施。3月23~25日は、神経心理学の専門家、中島恵子氏による「高次脳機能障害」に関する研修を行い、病気や怪我などによって脳が損傷を受けると、認知機能にどのような障害が起こるのかについて学びました。3月26~28日は、児童精神医学の専門家、井出浩氏から、災害が発生した時、子どもの心にどのような変化が起きるか、またそれに対し、専門家としてどのようなサポートができるかを学びました。

3月30~31日は、防災の専門家でありJISPの理事でもある市居嗣之氏によるリーダーシップ研修。震災から1年を迎える研修生たちは、将来の災害への備え、災害が発生した時の行動の仕方を教わり、改めて防災への意識を高めることができました。

4月2~3日は、老いやリウマチを専門とする後藤眞氏に、年齢と共に身体機能がどう変化するか、また災害が起きた際、高齢者の方へどのように接するべきかを学びました。25名の研修生たちは、学んだ知識を生かすため、次のステップとして、10箇所以上の現地団体に6ヶ月間インターンとして派遣されます。



▲すでに専門家として活躍している研修生は、学んだ知識を実践の場で生かしています。



ご支援(寄付)のお願い

当団体の理念やプロジェクトにご賛同いただける方からのご支援(寄付)をお待ちしております。ご協力のほどどうぞよろしくお願い致します。



一般社団法人JISP(日本イスラエイド・サポート・プログラム)は、専門性の高い心のケアを通して、震災や人災にあわれた方・コミュニティの復興と発展をサポートする支援団体です。



5月14日にみなさまとお会いできることをメンバー一同楽しみにしています!

お問い合わせ

宮城県仙台市青葉区花京院
 2丁目2-68 高橋ビル401
 Tel: 022-722-8825
 Fax: 022-722-8825
 Email: contact@jisp.org
 Web: http://jisp.org

JICTER

日本国際トラウマ/緊急支援センターの略称。国内外の被災地を支援するため、心理社会支援の専門家ネットワークを日本に構築することをめざすプロジェクト。

構造化されたサイコドラマが もつ治癒の力を体験

4月2・3日の2日間、イスラエル派遣セラピストのハナン・スニール氏による「サイコドラマワークショップ」が行われました。今回は、株式会社プレイバック・シアター 研究所のみなさまに多大なご支援を頂き、東北から四国まで、日本で心理劇を実践されている方々にご参加いただくことが実現しました。

様々なウォームアップアクティビティで安全な場所を丁寧に築きながら、(主役)をグループが見つめていくプロセスを経て、ロール・リバーサル、ミラー、ダブルなどの技法を実際に体験しました。人を苦しめる(秘密)というのは暗がり好み、光(暴露)を嫌うものであり、サイコドラマはそこに光をあてることで秘密から力を奪うことを試みたり、グループのなかで光をあて共有することで、その人は一人きりではなくなることを知りました。構造化されたサイコド

ハナン・スニール氏による 「サイコドラマワークショップ」

マがもつ治癒の力を体験を通し学びました。参加者の方からは、提供する側にとっても「間違いができる」安全な場所を作り出す重要性について、新鮮な気づきがあった等のご感想を多く頂きました。

今回も会場のご提供でご支援をいただきました明治学院大学さま、ありがとうございました!



▲日本各地のサイコドラマの専門家とともに、ハナン氏から新たな視点と気づきを得ることができました。

Healing Japan Project

心理社会支援を行なっている方々、またそのサポーターに向け、表現によるセラピーの方法やPTSD予防法等のトレーニングを実施するプロジェクト

音楽を通し、笑顔が溢れる セラピーを体験

イスラエルより来日した音楽セラピストのアドヴァ・フランク=シュウィベル博士と、岩手県陸前高田市にお邪魔しました。

1日目は「ご近所のみなさんと音楽セラピー体験」と題して5歳から70代、お仕事なども多様な皆さんと、音楽を聴いたり創り出したりして、コミュニケーションをするというアクティビティをご一緒しました。

2日目は、医療や地域支援などの分野に携わる方々にお越し頂き、人が持つ最高の楽器である「体」を使い創り出す音楽を用いて、音楽の持つリラックスやコミュニケーションの力を共有することができました。お越し頂きました皆さま、ご支援を頂きました陸前高田市交流センターの皆さま、どうもありがとうございました!

アドヴァ・シュウィベル博士による 陸前高田での音楽セラピー



▲幅広い年齢層の方に、終始和やかな雰囲気の中で、楽しく音楽セラピーを体験していただきました。

熊本・九州大震災

4月24・25・26日初動調査のご報告 JISP理事 市居嗣之

JISP一同より、4月14日より熊本県を中心に九州で連続して起きている地震による被害にあわれている方々に、心からお見舞い申し上げます。ご不安な日々を過ごされていることかと思いますが、しばらく予断を許さない状況のようですので、みなさまが安全確保を第一優先とされ、これ以上の人的被害がでないことを心からお祈りしております。

JISP及びIsraAIDは、4月24日~26日の3日間、熊本地震の現状と今後の支援ニーズを把握するため、24日は、東京医科歯科大学の看護師と共に、また25・26日はTOMODACHIイニシアチブの大学生5名と共に、益城町、御船町内の指定避難所、未指定避難所(教会)等を回り、現状のヒアリングと子ども向けの簡単なワークショップを行ってまいりました。

震源地を中心に被災現場を見て回りましたが、被害は局所的で、近隣圏内でも、被害のあるなしの差が、非常に顕著に出ている印象です。熊本市内の教会(未指定避難所)には100名くらいの方が、家屋倒壊での避難というよりは、不安などにより身を寄せられていました。今回一緒にワークを行った子どもたちは、とにかく元気。どのような被災状況にあったか個々の実情を聞

くことはできませんでしたが、非常に明るくワークに取り組んでいました。

話は変わりますが、現地の物資の状況。あふれかえっております。分配の方法が構築されていないことが課題とも思われますが、これでは、営業を再開している店舗がつぶれてしまいます...。徐々に物資から医療のフェーズに入ってきているのではと、現地の避難所の統括リーダーはおっしゃっていました。

まだ余震が断続的に続いており、現状は安全確保が最優先となります。しかし、今後時間の経過とともに、徐々にストレスが蓄積し、様々な症状を引き起こしてくると考えられます。ストレスリリーフや心のケアを支援の中心とするJISPは、長期継続的に被災者の方に寄り添った支援を行うため、5月上旬に第2回のニーズ調査を行います。



▲避難所となっている教会で、大人、子ども約30名の方とワークや、看護師による家族向けのカウンセリングを実施しました。



▲25・26日は、大学生ボランティアとともに、合計8軒の被災した家屋の片付けを行いました。

熊本での支援活動にご協力いただける方からの寄付をお待ちしています。

熊本支援活動 寄付振込先

ゆうちょ銀行から

ゆうちょ銀行以外の銀行から

記号18100 番号6992821

普通預金 店番号818 口座番号0699282

※お振込みいただいた後、裏面のお問い合わせ電話番号にご連絡いただけますようお願い致します。